



治水の達人に迫る！

第3回

昔の技術で
やってみました！

わが国の治水の歴史

わが国の治水の歴史は、農耕が始まった弥生時代までさかのぼるといふ。当時の治水とは川を治めることではなく、川から離れた場所に集落をつくり、洪水氾濫から集落を守るための排水路を構築する程度であった。本格的な治水事業が行われるようになったのは、古

伝統的河川工法「聖牛」(前編)

豊富な水と豊かな環境をもたらし、私たちの生活を潤してくれる河川。川は豊かな実りをもたらすと同時に、洪水氾濫により私たちの生活を脅かすこともある。この脅威から私たちの生活を守り、快適な生活を支えているものが治水技術である。今回は、伝統的な治水技術の一つである聖牛について紹介する。

墳時代からといわれている。大和朝廷の発足により、淀川の築堤工事など統一政権下での体系的な治水事業が行われるようになった。治水技術が飛躍的に発展したのは戦国時代だ。各地の大名が領地・領民を守るため、熱心に治水事業を行ったのだ。代表的な治水事業として、武田信玄による金無川の信玄堤、豊臣秀吉による淀川沿いの文禄堤などがある。また、この頃に

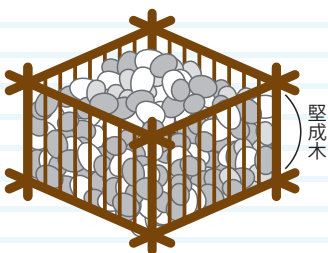


図2 沈みわく

各地の河道特性に対応したさまざまな水制技術が考案された。たとえば、木材を三角錐の形状に組み

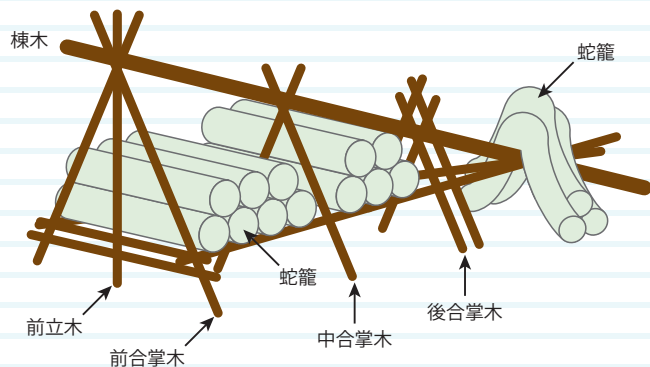


図1 聖牛の姿図と主な部材の名称

